



# 特集「中国」にあたって

パテント編集委員会

副委員長 佐藤 富徳

中国は、経済成長率が、1990年代は10%を超え、1997年のアジア通貨危機以後は減速したというものの、7～10%の高度経済成長中であり、北京オリンピックも2008年開催予定であり、世界の経済大国として押しも押されもしない存在となっていくことは言うまでもないであろう。

そして、貿易相手国としては、2004年、日本にとって、中国は、米国を抜いて第一位の貿易相手国となっており、中国にとって、日本は2003年まで最大の貿易相手国であったが、2004年に欧州連合、米国に抜かれに第3位の貿易相手国となった。

現時点において、日本の経済成長のエンジンは中国経済に支えられているといっても過言ではない。ちなみに、中国は、軍事面では米国に次いで世界第2の軍事大国である。

また、将来は、中国は2030年には、米国について世界第2位の経済大国になるものと予想されている。GDPにおいて日本と中国の地位交代するクロスポイントは2020年～2030年の間と考えられる。

中国は、知的財産については、発展途上国のスタンスを採っているが、徐々に知的財産についても知的財産大国になっていくものと考えられる。

このような中で、中国における知的財産権の緒状況を知っておくことは、非常に重要かつ意義があるものと考えられるのではなかろうか？

日本は、1990年代の失われた10年を経たが、知財立国を目指して、経済回復に懸命であるが、今なお回復基調にあるとは云えない。

むしろ、2010年以降、人口減により経済等は衰退していくものとも予想されている。

こういった状況を踏まえて、日本の中国に対する今後の知的財産戦略は如何にあるべきかを考える一助となればと思い、下記のような特集「中国」を企画した次第である。

## 特集《中国》

- ・ 在日中国弁理士を囲んで（座談会）
- ・ 中国における模倣の現状と模倣対策…………… 飯島紳行
- ・ 中国における知的財産権保護問題…………… 山崎 攻
- ・ 意匠特許権の保護に関する一考察…………… 程永順，劉鋒(訳)
- ・ 韓国弁理士が見た中国特許の現況…………… 金星雲
- ・ 中国特許訴訟の秘訣…………… 高国征，増田由希子(訳)
- ・ 中国の技術契約紛争案件の審理に関する新しい司法解釈…………… 遠藤 誠
- ・ 第16回日中弁理士交流会報告書 …………… 藤村元彦，越川隆夫